

観光ルート開発モデル事業（コンシェルジュ対象）  
事業報告書 概要版

対象地域：北多摩地域（武蔵野市、小金井市、府中市、調布市）、南多摩地域（八王子市）

事業実施者：株式会社 JTB

令和2年12月

現状・課題

多摩地域は、豊かな自然や多くの観光資源が存在しているものの、1箇所ですべて外国人旅行者を集客できる観光資源は少なく、都心からの移動時間を有効に使える観光ルートもないことから、旅行者の目線で旅行者が自ら考えて観光できるような観光資源の発掘と観光ルート開発を行い、外国人旅行者や国内旅行者の誘致を促進することを目的とする。

実施内容

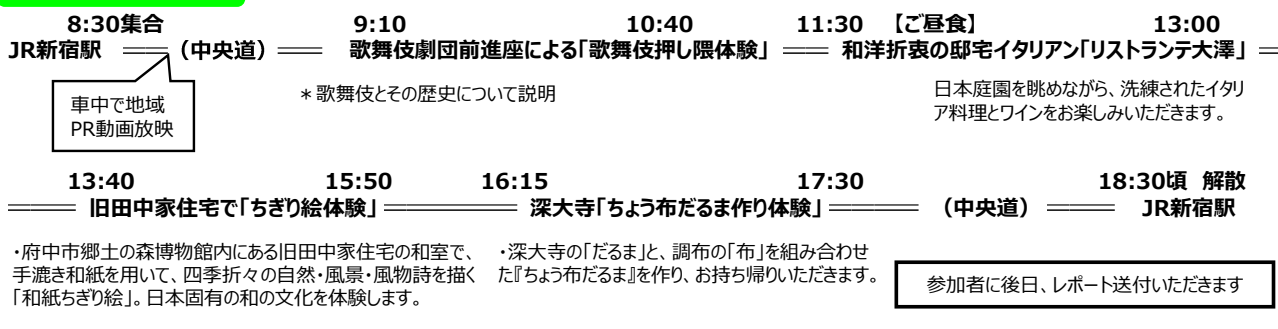
1. コンシェルジュ対象の日帰りモニターツアー（無料）の実施

(1) ツアー企画内容

- 参加対象者：都内の外資系ホテル等のコンシェルジュを中心とした方々
- 実施地域：多摩地域の伝統文化を保有する北多摩地域と、日本遺産認定された高尾山を中心とした南多摩地域

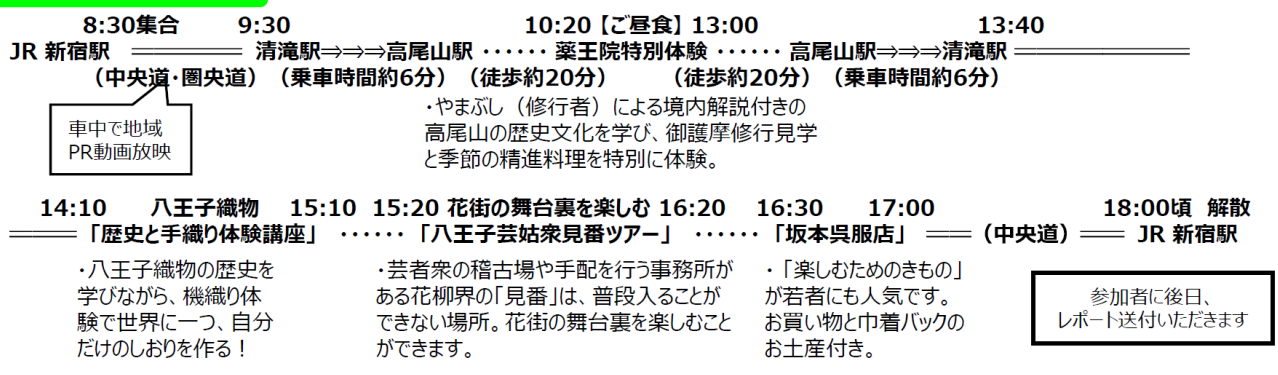
北多摩「古典の森へ誘い～歌舞伎押し隈・ちぎり絵・ちょう布だるま作り体験～」

10月1日（木）



南多摩「祝！日本遺産認定 霊気満山 高尾山ツアー」

11月10日（火）



(2) 申込受付

- 「日本コンシェルジュ協会」会員を中心に、募集チラシの申込書をメールまたはFAXにより受付。

(3) ツアー実施内容

① 10月1日（木） 「古典の森へ誘い 歌舞伎押し隈・ちぎり絵・ちょう布だるま作り体験ツアー」

- 参加者数：14名
- 移動手段：貸切バス（中型）
- 体験内容：歌舞伎押し隈体験、ちぎり絵体験、ちょう布だるま作り体験
- 昼食：和洋折衷邸宅イタリアン「リストラテ大澤」でイタリアン料理をご賞味。



② 11月10日（火） 「祝！日本遺産認定 霊気満山 高尾山ツアー」

- 参加者数：12名
- 移動手段：貸切バス（中型）
- 体験内容：高尾山やまぶし（修行者）による境内解説・御護摩修行見学、八王子織物手織り体験、八王子芸姑見番ツアー
- 昼食：高尾山薬王院の精進料理をご賞味。

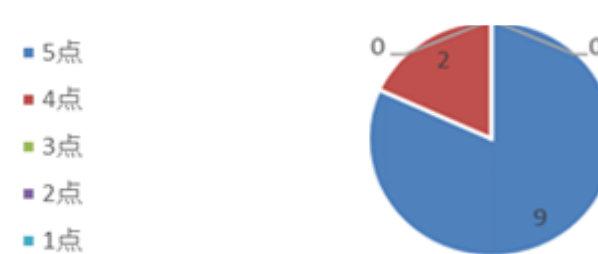


(4) アンケート調査内容

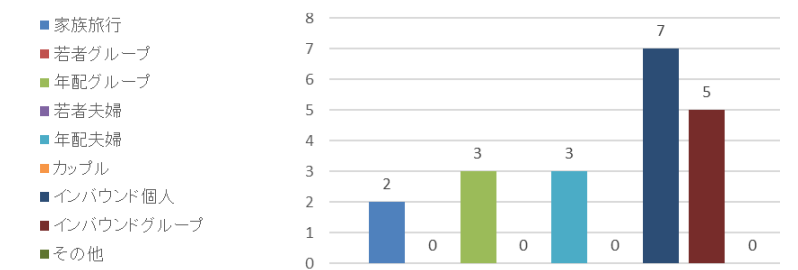
参加者にアンケート調査票（6枚）にご記入いただくことで、多摩地域の観光コンテンツのポテンシャルを把握し、今後の対策を検討していく。両コースともツアー評価は高く、旅行素材への興味度合いも高い。

① 「北多摩 古典の森へ誘い 歌舞伎押し隈・ちぎり絵・ちょう布だるま作り体験ツアー」

\* 今回のモニターツアーの点数

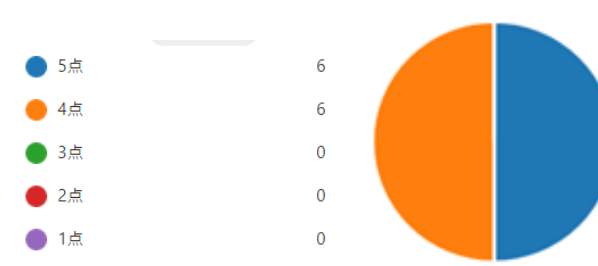


\* 今回のテーマ「自然・歴史文化のお勧めターゲット」

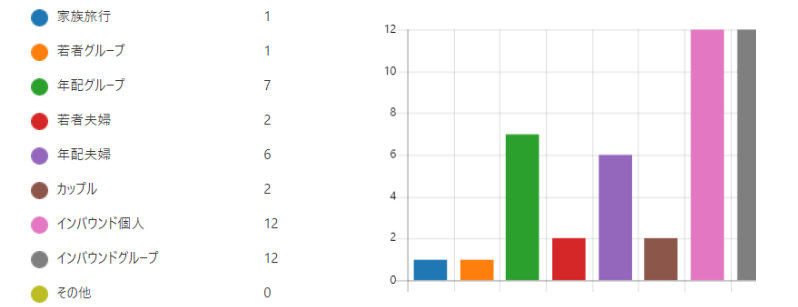


② 「南多摩 祝！日本遺産認定 霊気満山 高尾山ツアー」

\* 今回のモニターツアーの点数



\* 今回のテーマ「自然・歴史文化のお勧めターゲット」



事業成果

- コンシェルジュを中心としたご参加者に、多摩地域の体験・交流を通じた観光コンテンツの新しい魅力を認識していただけた。単なる物見遊山なツアーでなく、体験や交流を盛り込んだ内容とすることで、記憶に残る仕立てとした。
- 感染症対策を施し、安心してご参加いただけるツアーとした。
- 選りすぐりの食事会場で、季節の料理をご提供したご昼食とした。
- 参加者の満足度の高いアンケート結果  
体験コンテンツを中心に高い満足度となり、参加者ご自身のお客様へご紹介いただける観光素材であることが分かった。

課題

- 二次交通の脆弱さを補う手法が必要  
北多摩コースは、最寄り駅から徒歩では移動できず路線バスやタクシーが必要となる。一方、南多摩コースは、八王子の高尾山と八王子駅の徒歩圏内の観光コンテンツであったため、まずは、鉄道の駅から徒歩圏内の魅力的な観光周遊モデルコース「駅から歩いて行く多摩の観光魅力体験」を打ち出していくことも必要である。
- より多くの魅力を体験してもらおうが故のモニターツアーのため、散策時間が少なくゆとり時間から享受する要素に欠けた。  
今後、ニューノーマルな旅のスタイルとして、個人の分散型旅行が増えるにあたって、自由にのんびりと寛ぐ旅のニーズも高まる傾向も考えられる。多摩地域には多くの自然公園を有しており、多摩川をはじめ玉川上水、野川等の水辺の散策コースも多い。こうした散策も現地ガイド付きのツアーとすることで、単なる散策から自然を知る・学ぶツアーに仕立てることも可能である。

今後の展開

- 都心から最も近い多摩地域では、コロナ禍における少人数・分散型のマイクロツーリズムの目的地化を目指す。  
今後、インバウンドが復活した際には、欧米豪の富裕層が都心のホテル発着のタクシーを利用したパッケージツアーも考えられる。
- 体験・交流を軸に、グルメや自然を組み合わせ交通アクセスのしやすい観光モデルコースの造が必要。
- デジタル化が進展する環境において、デジタル観光コンテンツを活かした観光まちづくりが急務。  
GPS（全地球測位システム）機能により、目的地への経路や自身の最寄り施設情報を入手でき、消費も促せる街巡りデジタルマップも一考である。
- オンラインツアーをフックにリアルなツアー参加を促す仕掛けも必要。  
オンラインツアーでは現地を紹介し広報PRする役割とし、その魅力はリアルな旅で満喫していただくためのフックと位置づけ、実際に現地に出向き回遊してもらおうことで消費喚起も図っていくことが重要である。